７．具体的指導２

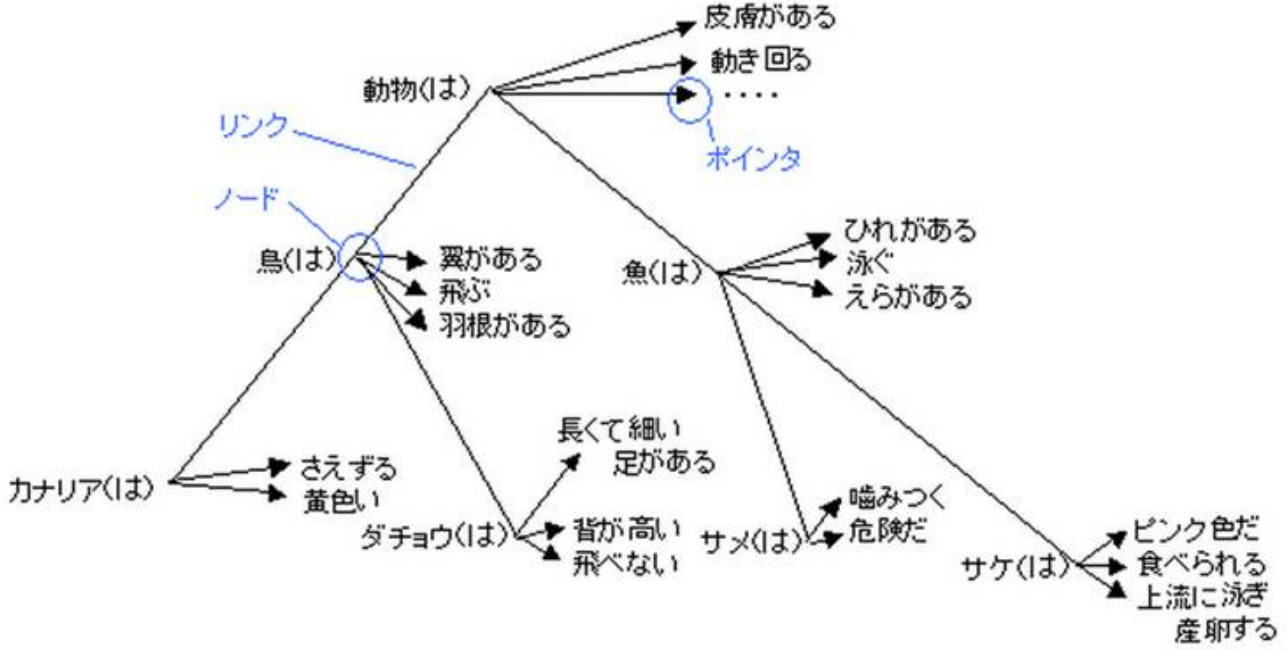
言葉の力を伸ばすには？

発達障がい児のことばの遅れの特徴
言葉は知っていても言葉の広がりがない

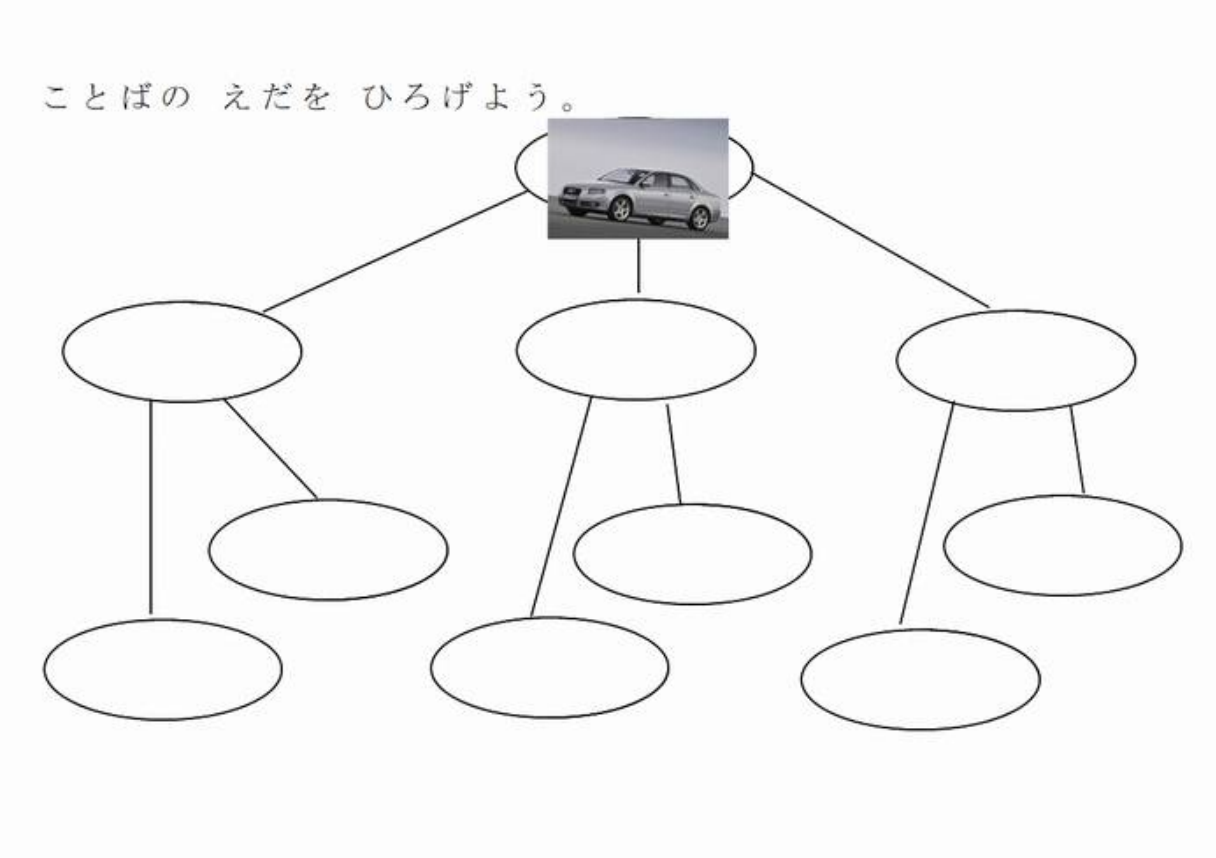
意味ネットワーク理論
人はどのように言葉を記憶しているのか

・**意味ネットワークモデル**

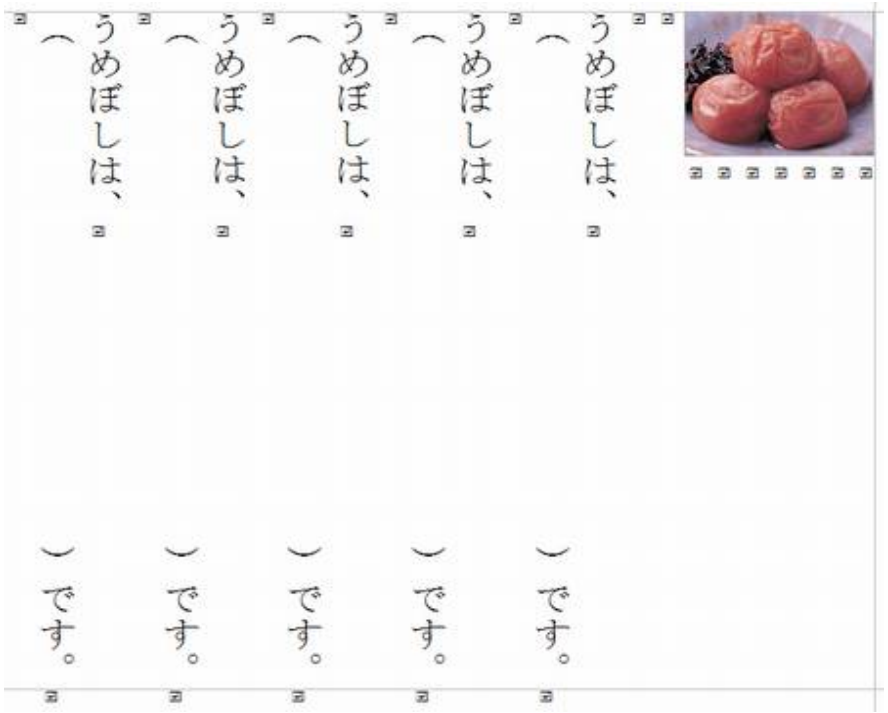
CollinsとQuillian（１９６９）の階層的ネットワークモデル



言葉の質を高めるプリント１



言葉の質を高めるプリント２



うめぼしは、
（　　）です。

うめぼしは、
（　　）です。

うめぼしは、
（　　）です。

うめぼしは、
（　　）です。

うめぼしは、
（　　）です。

言葉の質を高めるプリント３

いちごに　ついて　あっている
もの　に○を　つけましょう。

かたい

あかい

あおい

そらをとぶ

はな

くだもの

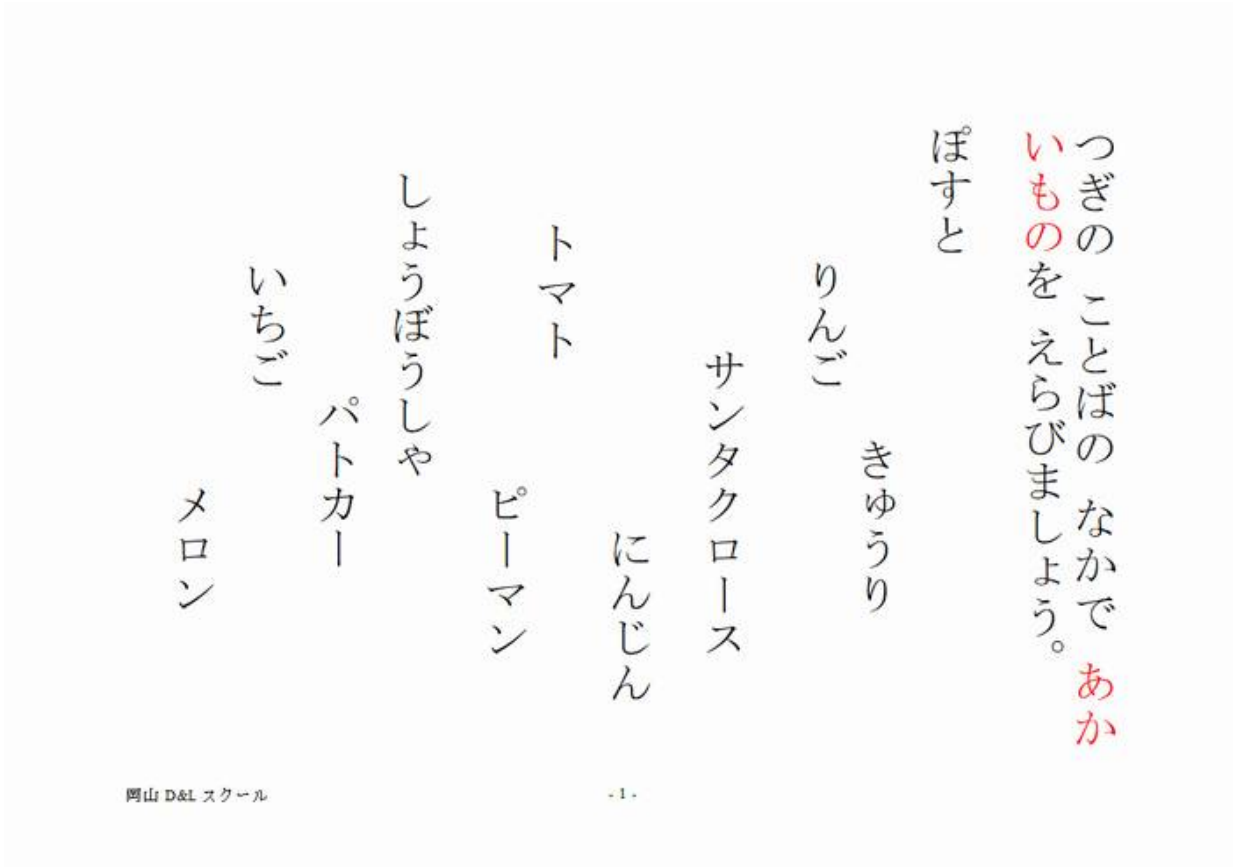
きになる

ゆき

たべもの

いし

言葉の質を高めるプリント４



つぎの ことばの なかで あか
いものを えらびましょう。

ぽすと

きゅうり
りんご

サンタクロース
にんじん

トマト
ピーマン

しょうぼうしゃ
パトカー

いちご
メロン

５．論理を付けるための作文指導

考える力を付けるには

作文指導が有効

○長い文ではなく一行作文
○５Ｗ１Ｈを押さえて書く
○主語と目的語をしっかりと（助詞の指導が大切）

助詞と語順

○なぜ助詞なのか

ノーム・チヨムスキー

**　生成文法論の生みの親**

**　彼はそこで語順の大切さを強調している**

実際、英語においては語順が意味を決定する上で重要な役割を果たしている。

S＋V＋C

She is a girl.　とは言うが、

Is a girl she.　とは言えない。

S＋V＋O

He has many balls.　とは言うが

Many he ball has.　とは言えない。

日本語においては語順よりも助詞の扱いが重要

「ぼくは、彼を たたいた。」
「彼を、ぼくは たたいた。」
以上の２文はことばの順番がちがうが意味は同じ。

「ぼくは、彼を投げ飛ばした。」
「ぼくを、彼は投げ飛ばした。」
ことばの順番は同じでも、主体と客体が逆転している。

※日本語では助詞をどう扱うかが一番重要なこととなってくる。

主語と目的語をしっかり書くためには

助詞の指導が必須